

## 中期計画N2026進捗状況 2025年度 東京農業大学

| 事業項目   | No.            | アクションプラン                                   | 実施計画の年数 | 達成度(進捗) % | 2025年度進捗報告   |
|--------|----------------|--|---------|-----------|--|
| 内部質保証  | UA2-1          | 全学審議会による各学部・研究科PDCAサイクルの支援機能強化に向けた進捗管理     | 4年      | 75%       | 中期計画N2026の実現に向け、各学科・専攻がそれぞれ策定した計画に基づき、活動内容を点検した。年度末に自己点検評価を行い、策定した計画に沿って活動が行われたか、活動結果の検証を実施。次年度はN2026の最終年となることから、これまでの活動内容を踏まえ、より中期計画の実現が推進できるよう進捗管理していく必要がある。   |
|        | UA2-2          | 全学自己点検評価委員会による内部質保証システムの検証とさらなる有効性検証機能強化検討 | 4年      | 75%       | 各学部・研究科において自己点検評価を行い、その結果を全学自己点検評価委員会にて確認。PDCAが適切になされているか全学自己点検評価委員会と全学審議会との連携のうえ進めている。  |
|        | UA2-3          | 教育研究活動等の自己点検・評価結果の公表による内部質保証の担保            | 4年      | 75%       | 全学自己点検評価委員会にて確認後、各種会議体での報告を経て、点検評価結果を大学HPにて公開している。   |
|        | UA2-4<br>UA2-5 | 学部・教学マネジメントの再構築（学部・大学院共通）                  | 4年      | 50%       | 【学部】昨年度策定したアセスメント・ポリシーによる運用開始には至らず、従来の点検・評価にとどまった。他方、教学マネジメントのうち、前回認証評価において課題となっていた学修者（学生）自身による学修成果の可視化への取り組みとして、ディプロマ・ポリシーとカリキュラムマップによる学修成果の達成度を指標化することを機関決定し、来年度9月からの運用開始に向けて着手した。<br>【大学院】昨年度策定したアセスメント・ポリシーによる運用開始には至らず、従来の点検・評価にとどまった。他方、学部については、教学マネジメントのうち、前回認証評価において課題となっていた学修者（学生）自身による学修成果の可視化への取り組みとして、ディプロマ・ポリシーとカリキュラムマップによる学修成果の達成度を指標化することとなった。大学院としては、学部とは区別し、従来の学位論文及び最終試験の判定資料を改善して学修成果の可視化を行う方向である。 |
|        | 小計(進捗平均)       |  |         |           | 69%  |
| 教育研究組織 | UA3-1          | 国際化推進のための組織・体制強化                           | 4年      | 50%       | 国際関連業務を担当してきた契約職員1名が、新たに地域限定職員として採用され、グローバル連携センターへ配置された。各学部への国際関連業務を担う人材の配置は人事に係ることもあり計画どおりの遂行は容易ではないため、代替策としてグローバル連携センター内に学部毎の担当者を設け、学部毎にサポートする体制を整えつつある。   |
|        | UA3-2          | 学園化にもとづく法人下各併設学校・その他高等学校との協力や教育の連携         | 4年      | 75%       | 今年度も様々な取り組みを実施することができた。農学部では連携協定校の生徒を富士農場にて受け入れを実施。また、4学科それぞれの特徴を活かした実習体験を開催した。また、仁川学院高校との連携に向けた検討を実施。応用生物科学部、生命科学部、地域環境科学部においても連携協定校への体験学習の機会を設けた。国際食料情報学部では、仁川学院高校(3月予定)と協定を締結し、次年度に向けて取り組みを加速させる。生物産業学部では、「オホーツク学」や「探究研修(ENEOS・名鉄観光)」を実施し、オホーツク学では、「SINRO」「アエラ」「新聞」「テレビ」でも取り組みが取り上げられた。上記以外でも出張講義等については、入学センターと連携のもと実施している。   |
|        | 小計(進捗平均)       |  |         |           | 63%  |

| 事業項目      | No.      | アクションプラン                                      | 実施計画の年数 | 達成度(進捗) % | 2025年度進捗報告  |
|-----------|----------|---|---------|-----------|---|
| 教育課程・学習成果 | UA4-1    | 多様な学びを推進するための学修制度の導入                          | 4年      | 66%       | 2029年度にカリキュラム改正を含む全学的な学部改組(18歳人口減少を見据えた学部単位での取組検討)を行うこととなり、これに関する各学部からの改組提案が2月末に提出されることとなった。については、これに係る提案内容やそれを踏まえた大学の改組の方向性等が決定した段階で再度、教学検討委員会にて本アクションプランの実施や変更の有無等を検討する。  |
|           | UA4-2    | 学部・分野横断の課題解決プログラムの導入                          | 4年      | 50%       | 「アントレプレナー教育」の実施に向けて、産学官連携センター(総合研究所事務部)、教務支援部、キャリアセンターが連携してプログラム概要案を策定した。起業プログラムと就農支援プログラムを正課と課外活動による3つのステージにて2年生から学ぶプログラムとし、4年次に総括・修了認定のうえオープンバッジを付与する。1月の会議体(全学審議会、合同教授会)にて機関決定され、新年度のガイダンス実施に向けて準備を進めている。  |
|           | UA4-3    | 学部・大学院一貫教育プログラムの構築・推進                         | 4年      | 50%       | 制度導入した生命科学部・生命科学研究科において、今年度の学部入学生から対象となる。今年度末、当該学部・研究科において、プログラム実施要項に基づき1年次生の中から希望者を募り、学業成績等を踏まえてプログラム適用候補者を選考する予定である。並行して、今年度受験者に大学ホームページや大学案内を通じて本プログラムを周知している。   |
|           | UA4-4    | ダブルディグリープログラムの構築・推進                           | 4年      | 66%       | 今年度も本学及び英国・レディング大学にて学生募集(説明会等)を行い、両大学から1名の志願者があり、入学試験の結果、両名とも合格した。現在、グローバル連携センターと協力し、派遣及び受入れの準備を進めている。なお、他研究科への制度導入(拡大)については、現在のところ無い予定である。   |
|           | 小計(進捗平均) |   |         |           | 58%   |
| 学生の受け入れ   | UA5-1    | 優秀な外国人留学生確保のための制度制定                           | 4年      | 75%       | 2025年4月規則委員会にて新規制度の制定案・改正案が承認され、新制度の周知を協定校及び校友会海外支部に対し行った。2026年1月全学審では、新制度「海外協定校奨学生」の募集要項が承認され、2027年度入学者の募集を開始した。また、入試検討委員会(入学センター)との連携で、新制度「外国人留学生特待生制度」の具体的な運用方法が整理され、2027年度入試より制度導入する。また、入試検討委員会にて外国人選抜への日本留学試験(EJU)スコア導入が検討され、2028年度入試から導入見込みである。 |
|           | UA5-2    | 入学定員の適正管理(1)選抜制度、実施体制検証および選抜制度改革              | 4年      | 75%       | 2026年度入試は、学部収容定員の厳格化に基づく収容定員1.1倍未満を維持しつつ、教務支援部および学務部と連携を図り、収容定員超過率算出に係る在学者数から留年者(2年以内)を除外するための要件を満たした。また、次年度における指定校選抜制度の基準見直し、併設校入試の各高校校枠の撤廃および学科単位での基準を設け、入試制度改革に向けた体制を整えている。  |
|           | UA5-3    | 入学定員の適正管理(2)新学習指導要領への対応(一般選抜改革・外部試験の検討)       | 4年      | 100%      | 一般選抜における外部試験(英語)の導入については継続審議とし、外国人選抜においては日本留学試験、帰国生選抜では英語外部試験(英語)の導入を予定している。また、一般選抜では学内併願割を予定しており、生物産業学部への併願が優遇されている。   |
|           | UA5-4    | 効果的な入試広報、キャンパスイベント、進学相談会等の実施(1)オンライン広報戦略      | 4年      | 100%      | 既に実施しているYouTubeチャンネルの運営を基本に中学生・高校生をターゲットとした広報を実施している。また、生物産業学部ではショート動画コンテストを開催しており、今後3キャンパス全体での開催も検討している。   |
|           | UA5-5    | 効果的な入試広報、キャンパスイベント、進学相談会等の実施(2)戦略的に対処する地域の明確化 | 4年      | 100%      | 戦略的重点化地域を策定し、高校内相談会・進学相談会に積極的な参加を実施している。また、重点高校も定め、本学外部評価委員への推薦や、高校の文化祭への出展など、高校との連携強化を図っている。   |
|           | UA5-6    | 戦略的な広報活動の実施による認知拡大、ブランド力向上、志願者の獲得             | 4年      | 75%       | step1・step2を基に、YouTube/動画配信サービス/対面での大学紹介など、手段に応じたブランディングムービーの作成に着手した。高大連携の取り組みである「オホーツク学」において、(株)進路企画による進学情報誌の密着取材を実施した。第4回東京農大SDGsコンテストを開催し、約460点の応募があった。また、次年度以降「文部科学省」後援を冠するコンテストとして価値向上を検討している。   |
| 小計(進捗平均)  |          |   |         | 88%       |   |

| 事業項目    | No.            | アクションプラン                          | 実施計画の年数 | 達成度(進捗) % | 2025年度進捗報告  |
|---------|----------------|-----------------------------------|---------|-----------|---|
| 教員・教員組織 | UA6-1<br>UA6-2 | 体系的FDの構築・推進(学部・大学院共通)             | 4年      | 66%       | 【学部】実施計画に基づき、教員表彰(ベストティーチャー賞6名・ベストレクチャー賞1名)及びFD研修(①特別講演「生成 AI と教育の現在地:課題を踏まえた活用法」/大阪大学全学教育推進機構・長岡徹郎先生)、②教員表彰受賞者による授業実施のポイント講義)を実施した。FD研修は87%の教員が受講し、うち98%が参考になった旨評価した。また、教員表彰制度について、現状の課題を踏まえ、受賞回数は3回までとし3回受賞者には別途表彰する改善を行った。<br>【大学院】実施計画に基づき、教員表彰(ベストティーチャー賞6名・ベストレクチャー賞1名)及びFD研修(①特別講演「生成 AI と教育の現在地:課題を踏まえた活用法」/大阪大学全学教育推進機構・長岡徹郎先生)、②教員表彰受賞者による授業実施のポイント講義)を実施した。FD研修は87%の教員が受講し、うち98%が参考になった旨評価した。また、教員表彰制度について、現状の課題を踏まえ、受賞回数は3回までとし3回受賞者には別途表彰する改善を行った。 |
|         | 小計(進捗平均)       |                                   |         |           | 66%   |
|         | UA7-1          | ピアサポート制度による学生支援及びキャンパス活性化         | 4年      | 75%       | 今年度から、厚木・北海道オホーツクキャンパスにてアカデミックサポーターを導入し、全学における運用体制を構築した(今年度サポーター数:世田谷28名、厚木13名、オホーツク5名)。各キャンパスでの履修相談会やイベント開催等の活動に加え、キャンパス間や他大学のサポーターとの交流(勉強会等)を行うとともに、これまでの活動状況を踏まえた制度改善や本制度の活性化と定着に向けた取り組みを行った。  |
|         | UA7-2          | 大学院生博士後期課程に特化したキャリアアップ支援策の実施      | 4年      | 66%       | 今年度は、教職課程の全面協力を得てプレFD「模擬授業で学ぶ“教える力”の基礎—農大流教育力体験ワークショップ—」を開催し、3キャンパスから、将来大学教員や研究者を目指す11名の大学院博士後期課程の学生が参加した。研修では、模擬授業とグループワークを通じた授業設計・実施・相互評価を行い、事後アンケートにより満足度や研修内容への要望を確認し教学検討委員会で共有した。  |
|         | UA7-3          | 多様な学生に対応した修学支援の実施(学術情報課程における修学支援) | 4年      | 75%       | 継続して行っているアンケートの内容を踏まえると同時に、就職時期の早期化や若い世代を取り巻く環境の変化に対応できるよう、授業内容の改善・実施を行った。具体的には、博物館実習における授業内容を見直し、より就職活動に活かせる内容に改善した。また、近年におけるAIの進化にともない、情報収集に関する技術的な指導の導入を試みた。   |
|         | UA7-4          | 多様な学生に対応した修学支援の実施(教職課程における修学支援)   | 4年      | 100%      | 本年度も昨年度同様に教員採用試験対策講座を実施している。本年度の現役正合格者は延べ人数40名(農業科15名、理科14名、技術9名、栄養2名)であった:学生からの報告に限る(2/17)。自治体の採用選考開始時期が今年度も早期化していることから、必要な学生に対して個別対応を丁寧に行った。また、教育研究フォーラムでは、学外から著名な実践家をお呼びした講演会を開催し、教育研究について学内外の方と議論し、本学校友会の教職員部会や教職課程学生との交流を深める機会を企画した。   |
|         | UA7-5          | 外国人留学生の修学支援                       | 4年      | 66%       | 昨年までの実施内容に加え、日本語科目履修が困難であった厚木、オホーツクキャンパスの留学生向けに、オンラインでの日本語科目開講を開始した。また、通常のオリエンテーションに加え、昨今増加している留学生をターゲットとした詐欺や犯罪に係る注意喚起を目的とした世田谷警察によるガイダンス、学費納入方法の変更説明会などを実施した。   |

| 事業<br>項目 | No.   | アクションプラン                                    | 実施<br>計画<br>の年数 | 達成度<br>(進捗)<br>% | 2025年度進捗報告  |
|----------|-------|---|-----------------|------------------|---|
|          | UA7-6 | 新卒採用の動向や、国の方針に対応した就職支援プログラム策定と実施による学生満足度の向上 | 4年              | 66%              | <p>本計画は、達成スケジュールに記載されたstep1～3の手順を繰り返し、学生の満足度向上の為、毎年ブラッシュアップした就職支援プログラムを策定・提供している。</p> <p>2025年度は、昨年度課題等とした次の3点について注力して取組を行った。</p> <p>1. 就職活動開始時期の多様化に対する支援<br/> (1)リアルタイムで就職支援プログラムに出席できない学生への対応<br/> ①一部講座のアーカイブ配信を実施<br/> ②AI面接練習ツールの提供<br/> (2)加速する早期化に対する対応<br/> ①業界研究会等企業来校イベント開催時期の見直し<br/> ②全学年を対象とした公務員総合イベントを開催<br/> ③実践講座(面接、グループディスカッション、SPI模試等)開催時期の前倒し</p> <p>2. プログラム名称等表現方法の工夫 ※学生アンケートを受け改善した事項<br/> (1)初期接点となるプログラム一覧では、内容の詳細よりも簡潔に伝える言葉を選択。<br/> (2)プログラムのイメージが湧くイラストや図をチラシやポスターに挿入。</p> <p>3. 多様な進路選択に対する支援<br/> (1)起業家育成支援の強化<br/> ①昨年度1業種(飲食)から3業種(海外インターンシップ運営、外国人向け宿泊施設、SNS運用代行サービス)に拡大。<br/> ②学内関連部署との連携強化<br/> (2)日本酒に係る業界志望者への支援<br/> ①農大サポートが主催する日本酒関連講座(女性杜氏や世界で活躍する蔵元がテーマのもの)への学生無料参加を支援。</p> <p>主なプログラム実施後のアンケート調査では学生満足度は、5点満点中今年度4.02点(987人回答)昨年度は4.13点(669人回答)と微減したが、回答数が300名以上増加している点において、より良い就職支援プログラム提供(改善)への意図が参加学生に伝わっているものと考えます。</p> |

| 事業項目 | No.   | アクションプラン    | 実施計画の年数 | 達成度(進捗) % | 2025年度進捗報告   |
|------|-------|-------------|---------|-----------|--|
| 学生支  | UA7-7 | 留学生の支援体制の構築 | 4年      | 100%      | <p>1. 日本での就職を希望する外国人留学生の支援体制構築について<br/>支援体制は、学生アンケートを踏まえ、昨年度より必要な日本語能力、就職試験制度の理解を深める為の説明会を開催することとしたが、参加者が少なかった為、案内のチラシの工夫(興味をひくタイトル、英語表記)や周知にグローバル連携センターの協力を得て対象学年を分け8回実施。全ての説明会に外部の専門機関より講師を招き、ビザと就労可能な仕事の詳細説明等体制を強化した。【学生満足度:100% とても満足、満足の回答率】</p> <p>2. 日本人留学生の就職支援体制構築について<br/>グローバル連携センターの協力を得て秋出発の日本人留学生に対し、留学中のキャリアセンターのサポート(文書も配布)を周知。留学中の学生のオンラインによるキャリアセンターの利用あり。</p> <p>3. グローバル視点でのキャリア形成支援体制構築について<br/>(1)グローバルキャリアプログラム(旧国際インターンシップ)<br/>国際インターンシップは、2025年度よりグローバルキャリアプログラムと名称を改め実施。前年度からプログラムの内容(オーストラリア・シドニーでの28日間の就業体験)に大きな変更はないが就業先の選択肢の拡大と現地のサポート体制の強化を行った。【学生満足度:75% 大変満足、満足の回答率】※2024年度派遣学生の回答<br/>(2)グローバル人材と話そう<br/>卒業生が多く活躍する企業の協力を得て、開催。学生時代の過ごし方や学びなどが世界とどのように結びついていくのか等座談会形式で実施。【学生満足度:93% 大いに満足、満足の回答率】</p> |

| 事業項目 | No.    | アクションプラン   | 実施計画の年数 | 達成度(進捗) % | 2025年度進捗報告   |
|------|--------|--|---------|-----------|--|
| 援    | UA7-8  | 大学院生の進路支援強化のための「チャレンジワークショップ」を通じて、進路の選択肢拡大につなげる  | 4年      | 100%      | 国立研究開発法人/農業・食品(5人)、独立行政法人/化学・バイオテクノロジー等(6人)、民間企業/食品(29人)、民間企業/種苗(5人)へ事業内容等を事前学習した大学院生が11月に訪問し実施。(カッコ内は参加人数、うち1社は、オンライン実施)参加学生のアンケートでは、研究施設等を見学できたことや業務内容の説明、キャリアパス、OBとの座談会から実際に研究職として働くイメージができたとの回答が多くあり満足度は、5点満点中4.68点と高い評価であった。過去参加学生(2023年度)の進路状況は、大学院生の採用実績が高い企業・団体への就職が多く、就職者のうち約4割が研究職として進路決定している。また、2名がチャレンジワークショップに参加した企業への就職をしている。                                  |
|      | UA7-9  | 学部学科、他部署(健康サポートセンター、グローバル連携センター等)との進路支援に係る協力体制の充実と学生の多様性に対応した進路支援体制の構築によるキャリアセンター利用率向上と多様な進路への対応 | 4年      | 75%       | 進路面談は、早期化が加速する就職活動の中で夏休み期間中のインターンシップやオープンカンパニーの参加意欲が高まりいずれのキャンパスも前年を上回る参加人数となった。各キャンパスの参加人数と前年比率(カッコ内数値)は世田谷:1,060人(約108%)、厚木:511人(約200%)、北海道オホーツク:344人(約103%)となり、多くの学生にキャリアセンター及びキャリアセンター事務課の利用や進路への意識付けを行うことができた。学生の多様性に対応した支援として世田谷キャンパスでは、コミュニケーションに不安のある学生に対し12、2月に個別相談会(オンライン併用)を実施。各キャンパスでは、修学支援担当部署と連携をとり個別対応を行っている。10月以降は、来校企業を中心に採用継続情報をとりまとめ、3キャンパスで共有し学生へ提供を行った。 |
|      | UA7-10 | 授業料減免や奨学金などの経済的な修学支援の検証および実施   | 4年      | 100%      | 令和6年(2024)年度から国(日本学生支援機構JASSO)の給付型奨学金制度が拡充されたことにより、学業成績優秀者特待生と重複して採用される学生が増加した。現行の特待生細則は奨学金の減免給付となっており、重複した場合は満額の奨学金が受けられないことから、これを給付型制度に改正してすべての学生が同等の褒賞が受けられるよう「学業優秀特待生規程」を新たに制定した。「東京農業大学大学院学びて後足らざるを知る奨学金」の実施継続中。  |
|      | UA7-11 | 多様な学生に対応した生活支援の実施(1)障がいのある学生のための修学支援   | 4年      | 100%      | 合理的配慮の提供が義務となって丸2年たとうとしている。社会全体の認識度が増し、特性のある学生の在籍数も年々増加傾向にある。ガイドライン制定や規程の改正、研修等を実施し、障がいのある学生が相談しやすい環境の整備に努め、常に学科等と連携し、合理的配慮の内容を柔軟に変更できる体制を構築するよう努力している。  |
|      | UA7-12 | 心身ともに健康な学生生活を送るための生活支援の実施  | 4年      | 100%      | 定期健康診断において健康調査票(9119人回答あり)を分析したところ、自己申告による受診歴ではあるが、精神・神経の病気2.6%、発達障がい0.9%、両方0.3%と回答があった。日本学生支援機構の実態調査の本学回答では障がい学生数(5/1現在)は精神・神経の病気0.6%、発達障がい0.4%、両方0.04%、全体で1.8%である。定義は異なるものの健康調査票での回答が約2.3倍も障がいがあると回答している。また、この回答をした学生は自覚症状が複数あったり、相談室の利用もしていることが多いことが分かった。学生相談室利用の稼働率は学生相談87%、修学支援相談84%(2025年10月)であった。   |
|      | UA7-13 | コロナ禍において停滞した課外活動を活性化するための課外活動支援の実施   | 3年      | 100%      | 課外活動を統治する農友会総務部業務を再構築し、会計業務の細則変更・更新を行いシステム化に伴うマニュアル化を進めた。収穫祭では、コロナ前と同じく従来の開催へと戻ったが、来場者数については若干下回っている。地域連携において、各地域と収穫祭関係のイベントや広報、団体を派遣し催し物の参加やボランティアが再始動したが、更なる再構築が必要である。課外活動の活発化に伴う事故やトラブルを通常業務の中で解消しつつ、学内・外における騒音や交通マナー等地域住民とのトラブル解消のため警備強化を行う。   |
|      | UA7-14 | 多様な学生に対応した生活支援の実施(1)障がいのある学生のための修学支援   | 4年      | 75%       | 昨年度に引き続き修学支援申請があった際には、学生教務課、保健室、カウンセラー及び学科と情報を共有、連携し、必要に応じて面談等を実施して支援の内容の検討や現状報告を行っている。施設改修等予算申請を必要とする案件は生じていないが、既存の更衣室やトイレの使用に配慮が必要な案件があり、運用レベルで対応を行った。修学支援申請者数は前年度と同様の人数であった。  |
|      | UA7-15 | 心身ともに健康な学生生活を送るための生活支援の実施  | 4年      | 75%       | 引き続きK10調査及び学科による定期的な面談の実施、カウンセラーからのヒアリングと教職員向けメンタルヘルス学習会も開催し、現状把握と情報共有はできている。特に学科とカウンセラー、保健室との連携が強化傾向にあり、メンタルヘルス委員会において現状を確認している。  |

| 事業項目 | No.      | アクションプラン                           | 実施計画の年数 | 達成度(進捗) % | 2025年度進捗報告  |
|------|----------|------------------------------------|---------|-----------|---|
|      | UA7-16   | コロナ禍において停滞した課外活動を活性化するための課外活動支援の実施 | 4年      | 75%       | 2024年度末に3キャンパスでの調整において「課外活動活性化推進計画」についてはキャンパスで事情が異なるため各々のキャンパスで策定することとし、その後策定したものを本年度の第1回学生委員会で提示した。その策定を基に新規同好会結成時の在学生への周知、イノベーションベース大型モニターを活用した広報などを実施し、次年度初めより勧誘機会を増やすこと、課外活動掲示板の設置などを計画している。  |
|      | UA7-17   | 外国人留学生の修学支援                        | 4年      | 50%       | 2年にわたり留学生が入学してこなかったが、本年度は3人の留学生が入学したため、4月8日(火)に留学生ガイダンスを行った。ガイダンスでは全学生に対して行うガイダンスでの分からない部分の確認等を中心に行うと共に、留学生の上級生にも参加を促し、留学生同士の交友関係構築も行った。更に中国からの留学生が多いため自然資源経営学科の范為仁教授にも参加いただき、アドバイスをいただいた。<br>また、昨年度に引き続き北見工業大学と留学生交流カーリング大会に参加した。他大学の学生や教職員の交流を深めることにより、お互いの信頼関係を構築する良い機会になった。   |
|      | 小計(進捗平均) |                                    |         | 82%       |   |
|      | UA8-1    | 質の高い教育を実施するためのLMSの導入(学部・大学院共通)     | 4年      | 66%       | 【学部・大学院】3キャンパスの担当所管において教員及び学生に対する継続的なサポートを行い、大きな問題はなく運用している。しかし、全教員(専任・嘱託教員、非常勤講師)における使用割合は約60%(世田谷60%、厚木52%、オホーツク70%)にとどまっており、今後の使用必須化に向けて、①新たにLMSを使用する教員対象説明会、②LMSを使用している教員対象研修会を年度内に開催する予定である。   |
|      | UA8-2    | インターネット利用環境の整備                     | 4年      | 100%      | step3: ネットワークの安定運用と安全管理を図り、さらにネットワーク利用帯域の増加に対応して利便性を向上させることを目的に、世田谷キャンパス(サイエンスポート、1号館、アカデミアセンター、常磐松会館・道場)、厚木キャンパス(研究棟、講義棟、第二講義棟、本部棟、衛生学研究棟、生き物連携センター、病理調整棟、作物調理棟)のネットワーク機器の更改を企画・立案し、2026年度の更新に向けて予算申請を行った。<br>また、世田谷キャンパスのグラウンド北側温室周辺および厚木キャンパス開花誘導制御室へのネットワーク敷設を実施するため、2026年度の新設に向けた予算申請を行った。   |
|      | UA8-3    | 情報教育の授業運営に係る支援強化                   | 4年      | 100%      | 本年度より、新カリキュラムである、データサイエンス基礎(一)、データサイエンス基礎(二)および並行し、特別講義(数理・データサイエンス・AI教育)を実施。   |
|      | UA8-4    | パソコン利用技術向上に寄与する情報処理関連資格の対策講座の実施    | 4年      | 100%      | 本年度のMOS講座は夏期についてはオンラインのみ実施、春期は対面講座とオンライン講座の両方を実施する。<br>オンラインでの開講講座については、Word上級レベル、Excel上級レベル、Word一般レベル、Excel一般レベル、PowerPoint一般レベルである。<br>対面講座は1日コース(MOS試験実施を含む)なので、Word一般レベル、Excel一般レベル、PowerPoint一般レベルで実施。<br>MOS試験結果(夏期 オンライン): Excel上級レベル2(合格)/2(受験者)<br>Excel一般レベル6(合格)/8(受験者) Word一般レベル3(合格)/3(受験者)<br>MOS試験結果(春期 対面): Excel一般レベル 20(合格) / 20(受験者) Word一般レベル9(合格)/9(受験者) PowewrPoint一般レベル11(合格)/11(受験者)<br>MOS試験結果(春期 オンライン)については講座受講者がWord上級、Word一般各々1名いるがMOS試験は未受講(2/10現在) |
|      | UA8-5    | 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの実施           | 3年      | 100%      | 新カリキュラムの「データサイエンス基礎(一)」、「データサイエンス基礎(二)」を開講し、それぞれ521名、432名の履修者が受講した。前期終了時点で212名の修了者がおり、年200人以上のプログラム修了者数の目標を上回った。  |
|      | UA8-6    | 遠隔授業とBYOD環境の充実                     | 4年      | 66%       | Step2: 要望に基づき、7号館4050製図室Bで同時接続される機器の状況を調査し、安定してネットワークを利用できると想定される台数に応じてAPの増設を行った。また、来年度に予定しているネットワーク更新に向け、現在の電波弱点エリアやAP不足箇所の調査を進めている。<br>Step3: 次期ネットワーク更新に向けて演習室、自習室、図書館等のPC設置方針の検討を開始した。現状の利用状況を考慮し、自習室のPCを削減する方向性で検討を進めた。  |
|      | UA8-7    | 特色ある国際プログラムの実施(学部主導型国際化の推進)        | 4年      | 75%       | 学部で執行可能な学部国際化予算の増額、ゲストスピーカー招へい要領等の関連規程・要領の整備、グローバル連携センター内の学部担当者を設置等、学部における国際化の活動を予算面含めサポートする体制を強化した。また、今年度は新たな学部主導型短期派遣プログラムとして、マレーシアコース、台湾コース(いずれも国際食料情報学部主導)が実施され、学部で企画・運営される外国人教員・研究者ゲストスピーカー招へいなど、学部主導型の活動が拡充した。  |

| 事業項目 | No.    | アクションプラン   | 実施計画の年数 | 達成度(進捗) % | 2025年度進捗報告  |
|------|--------|--|---------|-----------|---|
|      | UA8-8  | 特色ある国際プログラムの実施(世界学生サミット)                             | 4年      | 75%       | 2025年度学生サミットは、インドネシアIPB大学と共催し、IPB大学キャンパスにて開催した。開催にあたっては、本学とIPB大学間での経費負担方法を検討し、IPB大学と本学が実質的に共催する形で開催することができた。2026年度学生サミットは本学キャンパスにて開催し、2027年度はフィリピン協定校であるUPLBがホストすることで先方学長の承認を得ている。UPLBとの共催の在り方については、今後先方と協議を行っていく。  |
|      | UA8-9  | 総合的な研究コンプライアンスの実施による健全で適切な教育研究基盤環境の構築                | 4年      | 100%      | ①【全教職員、対象となる大学院生】<br>1)研究コンプライアンス教育:実施計画に基づき対象となる教職員、大学院生を対象とした、研究倫理及び公的研究費管理に関する研修(eラーニングオンデマンド)を実施した。(一般財団法人公正研究推進協会eAPRIN)<br>2)リスクマネジメント教育:知的財産や利益相反に関してオンライン(及びオンデマンド)学習を実施した。<br>【学部生】学生ポータルにて研究倫理におけるテキストを配布した。(日本学術振興会テキスト及び独自教材) 1),2)とも独自コンテンツの開発を目指したが専門性が高いことから外部コンテンツを精査して利用した。<br>3)安全保障輸出管理:担当者は、安全保障輸出管理に係る現状や法令等の変更点に関するセミナーに参加し理解を深めた。その成果を学内にて教職員向けに周知し、研究公正の保持につとめた。<br>② Step1で開発した研究コンプライアンス公開プラットフォームにおいて、研究倫理規程、公的研究費の管理・監査に関する規程を公表した。   |
|      | UA8-10 | 学生満足度の高いキャンパス整備の推進と教育研究施設の充実(1)課外活動が活発化する活動環境の計画的な整備 | 4年      | 100%      | 新青雲寮(陸上部)が完成し運用され、食事に関しても常磐寮食堂業者エームサービスによるスポーツ栄養に特化した食事提供も始まった。桜丘アリーナ、馬術部厩舎、ホッケー場ネットの改修工事が開始され、令和7年度中に完成する。野球場のグラウンドの改修工事も始まり令和8年度中に完成予定である。また、テニスコート照明設備改修工事費を予算化し実施する。桜丘寮・若草寮・常磐松会館・道場の躯体調査・劣化診断を行った。   |
|      | UA8-11 | 学生満足度の高いキャンパス整備の推進と教育研究施設の充実(2)食サービスの安定化と向上の推進       | 4年      | 75%       | 令和7(2025)年度、すずしろ厨房の老朽機器(耐用年数超過)の入れ替えと、すずしろ・カフェテリアグリーン内装改修、通路床張替工事が終了した。また、グリーンアカデミーホール内装改修、通路床張替工事、機器更新が終了した。令和6(2024)年度から引き続き、令和8(2026)年度も生協カフェテリアグリーン厨房、学生寮(常磐寮)厨房の老朽機器(耐用年数超過)の入れ替え費用を予算化し実施する。  |
|      | UA8-12 | 総合的な研究戦略の策定による持続的で強靱な社会形成への貢献                        | 4年      | 100%      | ①【東京農業大学こめプロジェクト研究】の研究成果における社会実装に向けた取り組みとして、新しいお米の食べ方コンテスト「おこめをこえてけ」を前年度に引き続き開催した。また前年度の優秀賞については商品化への取り組みを進めている。それに加えて、鉄強化米の品種登録の作業を同時に進めている。<br>②東京農業大学と東京情報大学における異分野学際融合を前提とした3件(本学研究費 計400万円)の学内プロジェクト研究を実施した。<br>③公的研究費や民間資金等の外部資金の獲得は、前年度対比で3.4%増となった。<br>2025年度実績:487件 1,010,834千円(前年度実績:490件 977,246千円)<br>※件数は減ったが、1件当たりの金額が昨年度より高くなったため、獲得金額が増となった。<br>4【人材の好循環】:URAを活用し、知財相談42件を実施し、外部資金の獲得策として本学独自の研究助成獲得の支援ホームページを運用している。また、知財担当URA及び外部講師による産学連携/知的財産セミナーを前年度に引き続き開催した。それに加えて、総合研究所所属の客員教授及びURAによる毎月の定例ミーティングを行い、研究戦略立案や研究支援への情報共有を開始した。<br>【知の好循環】:特許等出願2025年度24件(2026年1月末時点、前年度同数、手続き中含む)<br>総合研究所主催のシンポジウムを2回実施した。(11/13開催:三井住友銀行と共催の研究<br>シーズマッチングイベント,2/27開催:産学官・地域連携意見交流会)<br>【資金の好循環】:「特許等関連収入」3,491千円(前年度比13%増) |

| 事業項目    | No.    | アクションプラン  | 実施計画の年数 | 達成度(進捗) % | 2025年度進捗報告   |
|---------|--------|---|---------|-----------|--|
| 教育研究環境等 | UA8-13 | 学内施設を活用した研究拠点の形成による実効的な研究推進の実施  | 4年      | 33%       | ①農生命科学研究センター附置機関の利用料等収入の実績は以下となる。<br>生物資源ゲノム解析センター:16,650千円(前年度比5.8%減)<br>微生物リソースセンター:605千円(前年度比171.9%増)。<br>当センターは、令和4年に保有する微生物リソースを有効に活用するため分譲、寄託、バックアップを受託するための料金表を含めた利用内規を制定した。これに加えて、昨年度より、同定(特定菌株の菌種推定)を追加し、当センターのさらなる利用者増加を目指し活動している。<br>次世代育種研究センター:学内研究プロジェクトにおいて研究棟を活用している。<br>②研究支援ベースを活用した寄付研究や共同研究の実績は以下となる。<br>2025年度実績【内訳】寄付研究:1件、共同研究:4件(前年度1件減)※担当教員の退官に伴う契約解除による減。   |
|         | UA8-15 | 学生と教職員とで創る農ある風景のキャンパスに向けたウェルビーイングなキャンパス整備の推進と教育研究施設の充実～厚木キャンパスに集う学ぶ人教える人支える人に寄り添ったインフラ整備とキャンパスの合理的なゾーン整備～ | 4年      | 50%       | 達成目標1の中期計画N2022で掲げた整備計画の木造校舎跡地エリア温室建設については、2025度中に完成する予定である。<br>多目的広場の設置については、引き続き検討中である。<br>達成目標2のキャンパス内未利用地の再構築については、キャンパス全体の有効活用について、引き続き検討中である。<br>達成目標3の各建物の陳腐化防止と長寿命化については、財務・施設部施設課と連携して、修繕の優先順位を決め、対応している。   |
|         | UA8-16 | 教室等の施設設備の改善・充実による教育環境向上   | 4年      | 75%       | 8号館2階の4教室(8-201,8-202,8-203,8-204教室)および4階の2教室(8-401,8-402教室)の空調設備設置工事を予定通り完了した。<br>2026年度は、2号館2階の4教室(2-201,2-202,2-203,2-204教室)および11号館の2教室(11-101,11-201教室)に空調設備を設置する。また、2号館1階大講義室の改築工事については、各建物全体の劣化診断調査および改修計画・設計業務の中で再検討することとした。  |
|         | UA8-17 | 利用者ニーズを踏まえた図書館資料の充実   | 4年      | 66%       | 1.年間貸出冊数:23,605冊(2025年12月末時点※一部11月末) 年度目標:約37,000冊(目標達成率:63.8%)<br>2.学生選書会の参加学生数:9名 年度目標:10名(目標達成率:90.0%)<br>3.学生による選書冊数:【選書会】100冊 年度目標:150冊(目標達成率:66.7%)<br>※(参考)購入希望42冊<br>4.e-Book閲覧件数:10,238件(2025年12月末時点) 年度目標:約9,300件(目標達成率:110.1%)<br>5.前年度計画に基づく数理・AI・データサイエンス科目に対応した資料購入結果等は以下の通りである。<br>購入冊数:130冊(2025年12月末時点) 年度目標:約185冊(年間購入3,699冊 目標達成率:70.3%)<br>①ニーズに併せた資料の購入にあたっての予算確保:図書費を確保して充当<br>②選書会参加教員及び学生ニーズにある資料購入:購入希望図書として対応<br>③貸出頻度の高いジャンル等の資料の積極的な選書実施:選書担当にて随時対応  |
|         | UA8-18 | 時代に対応した利用者サービス向上  | 4年      | 50%       | 1.学生利用者状況(step1)<br>本年度より実施した学内施設及び各媒体において、図書館利用と読書ラリー参加、学生ポータル等での周知活動を強化した。<br>・入館者数:111,274名(2025年12月末時点) 前年度:100,181名(前年度比:111.1%)<br>・読書ラリー参加者数:【エントリー】152名、【コメント提出】56名 年度目標:70名(目標達成率:80.0%)<br>2.環境整備と業務改善(step2)<br>・利用者の声:迅速な協議・対応のため、従来の紙媒体から電子媒体に変更して館内情報共有できる仕組みに変更<br>・教育研究支援:2024年度新規導入のディスカバリー検索サービスSummonを用いたオンラインセミナー「論文・レポート作成に役立つ文献の集め方ガイダンス」(教職員と学生向け)を開催、アーカイブ配信と当日資料をHP等で共有<br>3.図書館職員の研修参加等(step3)<br>・研修参加:OA事業や図書館協会、AI対応など各種関係研修及びシンポジウム等に参加、関係者間で情報共有<br>・後継者育成:知的財産を含む研究成果管理や貴重資料管理、AIリテラシーに係る専門知識の習得と実践が不足 |

| 事業項目 | No.    | アクションプラン           | 実施計画の年数 | 達成度(進捗) % | 2025年度進捗報告  |
|------|--------|--------------------|---------|-----------|---|
|      | UA8-19 | 学術成果の社会発信の促進       | 4年      | 75%       | <p>1.【step2】OA加速化5カ年事業計画に基づき以下を実施(step1は2024年度に終了)</p> <p>①各システム・運用フロー等の検証及び改善(システム開発業者・関係省庁及び関係団体と連携)</p> <p>②論文及び研究データの知的財産の確認と運用方法(総合研究所・法律事務所と連携)</p> <p>③成果分析管理及び分析の検討と関係予算の確保(総合研究所と連携した試行的分析の実施・分析システム導入予算申請)</p> <p>2.【step3】機関リポジトリ登録及び公開の積極的な推進<br/>年度登録件数(2025年度):116件(2025年12月末現在) 年度目標25件(目標達成率464.0%)</p> <p>3.【step4】オープンサイエンス、オープンアクセス時代に対応した図書館の在り方を検討</p> <p>①政府OA方針や大学における研究データの取扱いに関する本学独自のアーカイブ動画を学内に配信</p> <p>②「2030デジタル・ライブラリー」等において政府が求める研究支援組織としての大学図書館に要求する事項について整理して館内で共有</p> <p>③②で求められる図書館職員に必要な知識の取得とスキル向上、体制構築に向けた本学における課題と対応を検討開始</p> |
|      | UA8-20 | 利用者ニーズを踏まえた図書資料の充実 | 4年      | 75%       | <p>○新入生ガイダンス、企画展示(図書館員が薦める本)、読書ラリーなどを通じて学生への図書館利用、希望図書利用を告知。</p> <p>○学科長会および選書担当委員を通じて学科教員への図書の推薦、指定図書は授業担当者(非常勤講師含む)に告知。</p>   |

| 事業項目 | No.      | アクションプラン  | 実施計画の年数 | 達成度(進捗) % | 2025年度進捗報告  |
|------|----------|---|---------|-----------|---|
|      | UA8-21   | 時代に対応した利用者サービス向上                                  | 4年      | 75%       | ○図書館スタッフお勧め本コーナーや新着図書紹介コーナーの企画実施。<br>○新入生ガイダンスや学生ポータル・学科長会での読書ラリーの告知、ラリーポイント景品などの充実。e-Book、EJ、DBのコンテンツ充実を実施。  |
|      | UA8-22   | インターネット利用環境の整備                                    | 4年      | 75%       | ○新温室建設(2026年2月完成予定)に伴うネットワーク環境整備(無線AP:5台、スイッチ:1台)の実施。<br>○既存温室へ気象センサー(気温・湿度・二酸化炭素・照度のセンサーを設置し、クラウド上でデータ保存)試行運用開始。<br>○情報教育センターと連携し世田谷キャンパス・厚木キャンパスWi-Fiネットワーク設備の更新を計画中。   |
|      | UA8-23   | ニーズを踏まえた蔵書コレクション構築・管理と図書館情報システム改善による業務・サービスの向上    | 4年      | 75%       | Step1~4に鋭意取り組んでいるが、今後は書架の狭隘化対策として、消耗品図書に加えて資産登録図書についても一定程度の規模での除籍を行う必要がある。また、雑誌バックナンバーを収める集密書架の狭隘化も課題となりつつある。   |
|      | UA8-24   | ネットワークサービス利用環境の整備・安定運用と利用支援                       | 4年      | 75%       | 2024年11月にネットワークセキュリティの中核的な役割を担うFW(ファイアウォール)装置の更新とそれに伴うポリシー設定の見直しを実施している。また、実装OSやアプリケーションのセキュリティ関係Updateや修正モジュール適用等を目的とした情報システム定期保守(①2024年8月下旬~9月上旬で実施済、②2025年3月上旬に予定)や日常運用の中で、step2~4に関する課題解決や安定運用の維持に継続的に取り組んでいる。step4に関連しコンセントの無いエリアでの電源対策の一環としてACやPD充電対応のモバイル電源貸出について機器選定や具体的な手順などの検討にも着手している。 |
|      | UA8-25   | 教育研究活動を促進するための支援の実施:パソコン利用技術向上に寄与する情報関連資格対策講座等の実施 | 4年      | 75%       | 所管するコンピュータ教室に新たにMicrosoft 365対応の講習・試験環境を整備し、感染対策にも留意の上、運用支援を継続している。事前のオンラインビデオ講習と対面講習・試験のハイブリッド形式を併用することで、費用軽減や日程設定の便を図りつつ、第一回目(Word・Excel)を2025年7月24日~同月25日、第二回目(PPT・Excel)を2025年9月17日~同月19日に実施している。なお、今年度は年明けの開催は見送られている。   |
|      | UA8-26   | 複数の専門学芸員職員の確保と教職・学術情報課程との連携強化                     | 4年      | 50%       | 2025年6月からは、事務部課長が諸事情により図書館業務に変更となり図書館事務長が博物館業務を兼務することとなった。また、9月には休職していた職員(学芸員有資格者)が逝去し、学芸員有資格者は3名から2名に減少した。なお、学芸員有資格者の2名のうち1名は一般嘱託であったが、11月から専任職員(事務職)となった。しかし、学芸員としての専門職の設置には至っていない。改正博物館法では、学芸員を研究者として位置付けていることから、博物館から学芸員の専門職の配置について学長に提案し、現在第二専門委員会および人事委員会での検討を依頼中である。                       |
|      | UA8-27   | 博物館資料データベースのクラウドシステム化                             | 4年      | 50%       | 一通りの登録は完了したものの、システム側のフォーマットの変更および資料データが2重登録されていることがわかり、現在全てのデータの確認を行っている。しかし登録件数が多いため、一部の資料のデータのみ確定し公開を予定している。  |
|      | 小計(進捗平均) |   |         | 75%       |   |

| 事業項目      | No.      | アクションプラン                                    | 実施計画の年数 | 達成度(進捗) % | 2025年度進捗報告   |
|-----------|----------|---|---------|-----------|--|
| 社会貢献・社会連携 | UA9-1    | 産学官・地域連携活動の実働強化による社会連携・社会貢献の推進              | 4年      | 66%       | ①信頼力強化として、SMBCマッチングイベント、インスタグラム開設、メールニュース配信を行ったことに加え、企業が運営しているプラットフォーム(TMIP)へ加入しモーニングピッチ参加、産学連携の取組紹介を行った。<br>包括連携活動の全体的な熱量を向上させるため、ガストロノミーイベント『風景を食べる』を開催するとともに、産学連携意見交流会の開催(2/27)を予定している。交流会ではポスターセッションの他、活動事例報告を盛り込み、新しい情報や連携先同士のネットワーク構築ができるよう配慮している。加えて、産学官・地域連携に係る募金を設置し、資金面でも柔軟に活動できる体制を整えた。<br>2 研究/産学官・地域連携シーズのマッチングにおいては、企業・自治体等から113件の相談があり、その内15件が共同/受託研究、学術貢献、講演等に繋がった。また、シーズマップの登録数を増やすため、研究者へ新規・更新登録を促した。  |
|           | UA9-2    | キャンパス所在近隣地域との連携                             | 4年      | 75%       | ・部・同好会・統一本部14団体が学外の方々を対象とした活動(収穫祭の活動含む)を合計39回実施。<br>・新規に同好会2団体(里山地域おこし同好会、ハンドメイドサークル)を設立。<br>・同好会7団体に活動助成金を交付。<br>・厚木ミロードとのワークショップや出店を通じた地域活性化につながる企画・運営を検討。   |
|           | UA9-3    | 教職員による社会貢献の推進                               | 4年      | 75%       | ○各種活動を含めホームページやSNS、PRプラットフォームでの発信を強化している。<br>HPニュースリリース:383件、プレスリリース:32件(2025年4月~2026年1月)<br>○日経グローバル(日本経済新聞社)が実施した「大学の地域貢献度調査」における【1都3県の地方貢献度】で2位にランクインした。【内容】北海道網走市地域活性化 生物産業学部(北海道オホーツクキャンパス)がある網走市の関係団体と連携。「未来を考える戦略センター」を運営。網走市の地域活性化をめざす。<br>【実績】首都圏シェフに網走産食材を使った商品開発を依頼し、輸送やPR資料の作成を支援。マタタビとハスカップアイス、ホタテのパスタソース3品を商品化。市のふるさと納税返礼品として登録し、PR活動を展開。<br>○東京農業大学・東京情報大学・三井住友銀行と協力し、「産学官・地域連携HUB」シンポジウム「東京農業大学×三井住友銀行 研究シーズマッチング」を開催し、本学の教員の研究が社会解決に貢献できるシーズを一般企業に広く紹介した。<br>○学内からの申請手続きについて、情報収集とリリース強化のためのフローとしてMicrosoft Formsを整備して周知した。 |
|           | UA9-4    | 世田谷プラットフォーム中期計画に連動した取り組みの実施による地域連携・社会貢献への寄与 | 4年      | 75%       | 世田谷プラットフォームの取り組みにおいて、世田谷区教育総合センターで行うSTEAM教育講座は、小学生より好評のイベントとなっており、今年度は2025年9月20日に「おもしろい化学の世界～氷釣りを楽しもう～」を実施し、多くの児童が参加した。また、ビジネスキャリアデザイン講座では、オンデマンドの動画を配信し、本学の教育研究を広く発信することができた。今年度改革総合支援事業タイプ3においては、採択にならなかったが、世田谷プラットフォームの取り組みを継続、精査することができ、次年度採択に向けた加点アップのため単位互換(成城大学と連携)、共通シラバス、共同研究(東京都市大学)、共同施設利用(成城大学と連携した学生交流プログラムの実施)の準備を進めた。   |
|           | 小計(進捗平均) |   |         |           | 73%  |

| 事業項目     | No.    | アクションプラン  | 実施計画の年数 | 達成度(進捗) % | 2025年度進捗報告  |
|----------|--------|---|---------|-----------|---|
| 大学運営     | UA10-1 | 学生生活・教育内容・研究内容の収集・発信による東京農大ブランド力の強化に資する戦略的展開                                | 4年      | 75%       | <p>○各種活動を含めホームページやSNS、PRプラットフォームでの発信を強化している。</p> <p>&lt;発信件数&gt;HPニュースリリース:383件/プレスリリース:32件(2025年4月1日~2026年1月31日)</p> <p>&lt;SNSフォロワー新規獲得数&gt; X:2,197/Instagram:5,089/Facebook:1,008(2026年2月10日)</p> <p>○外部からの取材等協力依頼について、ブランディング向上に資するものについて協力している。</p> <p>&lt;件数&gt;依頼:494件/対応:294件/取材協力:124件(2025年4月1日~2026年2月9日)</p> <p>○小田急線の経堂駅及び本厚木駅で、車内アナウンス放送を実施している。</p> <p>○DiscoverJapanにタイアップ記事を掲出した。</p> <p>&lt;媒体情報&gt;発行部数10万部/X 6,894フォロワー/Instagram 2.8万フォロワー/Facebook 3.4万フォロワー</p> <p>○YouTube/動画配信サービス/対面での大学紹介などに対応するためのブランディングムービー(日英対応の大学紹介動画)の作成に着手し、今後の大学ブランディング向上に役立てる。</p> <p>○WEBニュース等の外部企業による広告価値換算評価を参考に、各月のニュース性のあるトピック等についても確認し、大学のPRに役立てている。</p> |
|          | UA10-2 | 適切な大学運営の実施 学内意思決定プロセスの検証と改善によるガバナンスコードとの連動                                  | 4年      | 75%       | 学内の意思決定体制は、内部統制を踏まえた適正な運用が確保されており、ガバナンスコードとの連動が図られている。  |
|          | UA10-3 | 適切な大学運営の実施 危機管理対策のPDCAサイクルによる不測の事態への対処・危機管理の徹底                              | 4年      | 50%       | 学校保健安全法第29条に基づき、危機管理基本マニュアルに心理的被害への回復支援を追記し第2版へ改訂した。あわせて、事後の迅速な支援手順を定めた「心のケア個別マニュアル」を新規策定した。また、同法第27条の要件を充足するため、各キャンパスの安全点検や教育活動を体系的に取りまとめた令和8年度の学校安全計画を策定した。一連の整備により、予防・初動・事後ケアの全段階を網羅する、法規に準拠した危機管理体制を確立した。   |
|          | UA10-4 | 総合農学系大学として特色ある教育研究の展開による私立大学等経常費補助金等の獲得と、獲得資金の新規事業への活用による教育研究の新展開を起こす好循環の実現 | 4年      | 50%       | <p>・「令和7年度私立大学等改革総合支援事業」の採択結果についてはタイプ2のみであった(前年度:タイプ2・4)。</p> <p>・「令和7年度教育の質に係る客観的指標」について獲得点数33点(前年比3点加減、一般補助増減率0%)であった。</p>  |
| 小計(進捗平均) |        |   |         | 63%       |   |